

平成25年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	災害時における都市交通施設の有効活用に関する調査経費(東日本大震災関連)		担当部局庁	都市局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	H23/H24		担当課室	街路交通施設課		課長 清水 喜代志		
会計区分	東日本大震災復興特別会計		政策・施策名	4 水害等災害による被害の軽減 11 住宅・市街地の防災性を向上する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災による帰宅困難者の状況を踏まえ、大都市において大規模地震が発生した場合、東日本大震災と同様に都市交通機能がマヒし、多くの帰宅困難者が発生することが予想されることから、帰宅困難者を対象にした都市交通施設の活用方策や経路網等を検証できる調査スキームを構築し、地方公共団体へ提供する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	H23年度に実施した平日における帰宅困難者の推計手法及び対策のあり方に関する検討を踏まえ、平成24年8月に発表された南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)に基づく津波浸水を考慮した帰宅困難者対策のあり方及び平成24年12月に発表された休日のパーソントリップ調査データ等を活用し、平日と異なる交通特性がある休日における帰宅困難者数の推計手法及び対策のあり方について検討を行い、補完するものである。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算		48	10			
		繰越し等		48	10			
		計		48	10			
	執行額		48	9				
	執行率(%)		99.9%	93.5%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	帰宅困難者を対象にした都市交通施設の活用方策や経路網等を検証できる調査スキームを構築 (本調査は、帰宅困難者を対象にした都市交通施設の活用方策、経路網等を検証できる調査スキームを構築する調査であるため、成果目標を定量的に示すことはできない。)			成果実績	-	-	-	-
				達成度	%	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	帰宅困難者を対象にした都市交通施設の活用方策や経路網の評価等 (本調査は、帰宅困難者を対象にした都市交通施設の活用方策、経路網の評価等を検討するため、活動指標を定量的に示すことはできない。)			活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-
					-	(-)	(-)	(-)
単位当たりコスト	-		算出根拠	-				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	-	-	-					
	計							

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	帰宅困難者の広域的な流動に着目し、ネットワークとして評価した場合の課題や対策をまとめたものであり、帰宅困難者対策を検討する地方公共団体に提示する必要性が高い。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	発注先の選定にあたっては、企画提案書の評価にあたり匿名評価方式で書類評価を行うとともに、企画競争委員会における外部の有識者委員会による審査を導入し、透明性・公平性の確保を図っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		—			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	帰宅困難者の推計手法や対策のあり方等の検討に際して関係自治体と意見交換を行うとともに、情報提供を行ったところ。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		—			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> 調査について、発注先の選定にあたっては、企画提案書の評価にあたり匿名評価方式で書類評価を行うとともに、企画競争委員会における外部の有識者委員会による審査を導入し、透明性・公平性の確保を図った。 帰宅困難者の推計手法や対策のあり方等の検討に際して関係自治体と意見交換を行うとともに、情報提供を行ったところ。 					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	—	平成23年	復興-0018、新24-2023	平成24年	0163

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国土交通省
9百万円

活用データの方針決定
地方公共団体との意見交換、調整



【企画提案による随意契約】

A. (一財) 計量計画研究所
9百万円

津波浸水を考慮した帰宅困難者対策のあり方やパーソントリップ調査等のデータを活用し、平日と異なる交通特性がある休日における帰宅困難者数の推計手法及び対策のあり方を検討

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.(一財)計量計画研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
請負	津波浸水を考慮した帰宅困難者対策のあり方、休日における帰宅困難者の推計手法及び対策のあり方等を検討	9			
計		9	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一財)計量計画研究所	津波浸水を考慮した帰宅困難者対策のあり方、休日における帰宅困難者の推計手法及び対策のあり方等を検討	9	随意契約 (企画提案)	98.8
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					